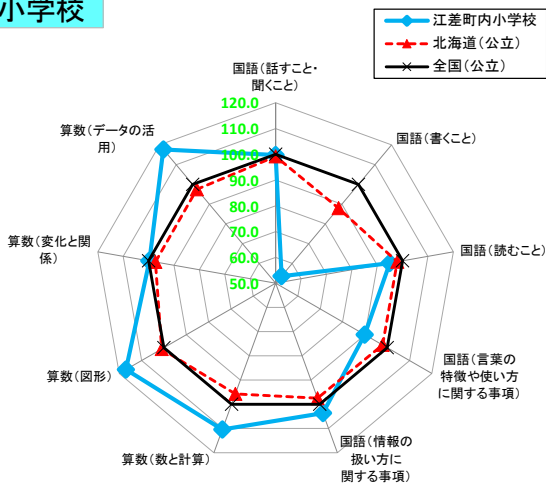


■江差町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:35人）（中学校数:2校、生徒数:41人）

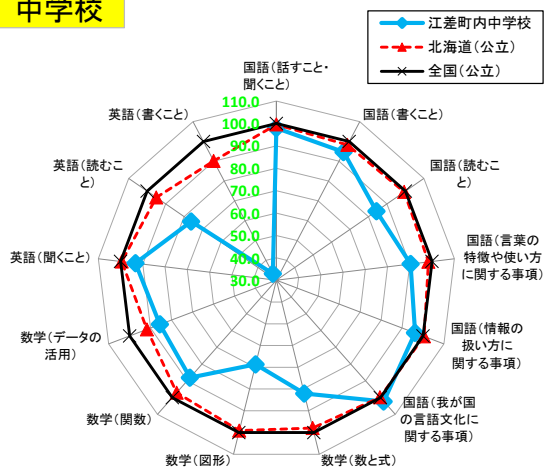
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

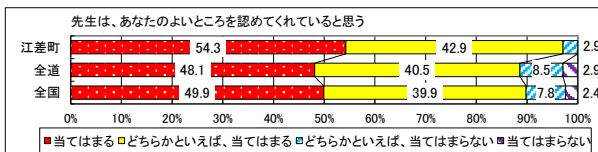
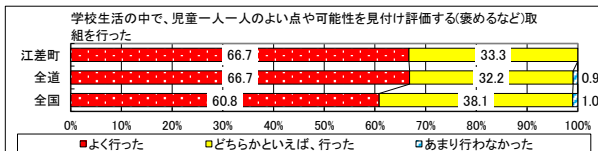
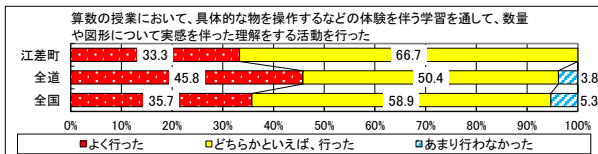


中学校

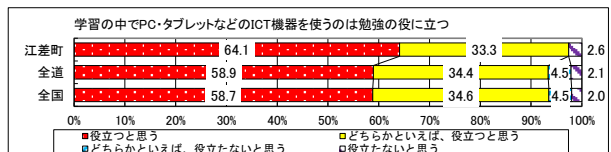
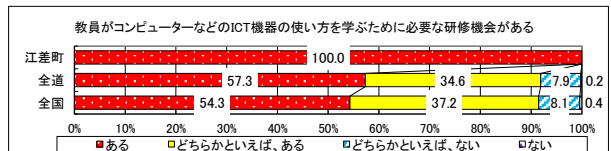
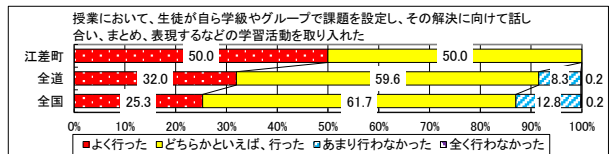


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての小学校において、算数の授業で、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことなどにより、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行ったことなどにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全ての中学校において、授業で、生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことなどにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国に近づいたと考えられる。

全ての中学校において、教員がコンピューターなどのICT機器の使い方を学ぶための必要な研修機会を設定したり、調べ学習で積極的にICT機器を活用したりしたことなどにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【江差町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育及び小中連携事業「トライアングルサポート」の継続と充実
- ◎ 学校の裁量で柔軟に学習活動や教員研修を実施できるようにするための「学びのカたちづくり推進モデル事業」の実施
- ◎ 「学校ICT活用環境整備事業」及び「学校AIドリル導入事業」によるICT機器の活用の促進と充実

【Webページ】

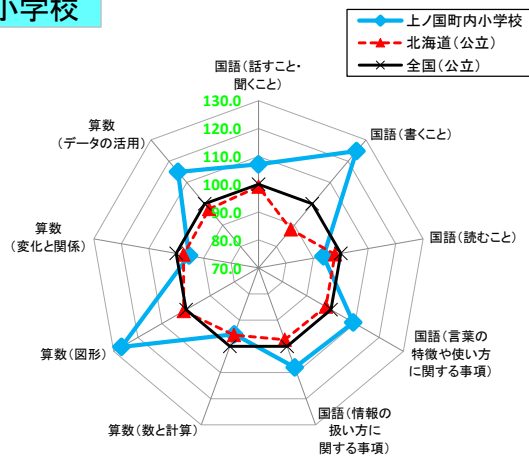


■上ノ国町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:27人) (中学校数:1校、生徒数:20人)

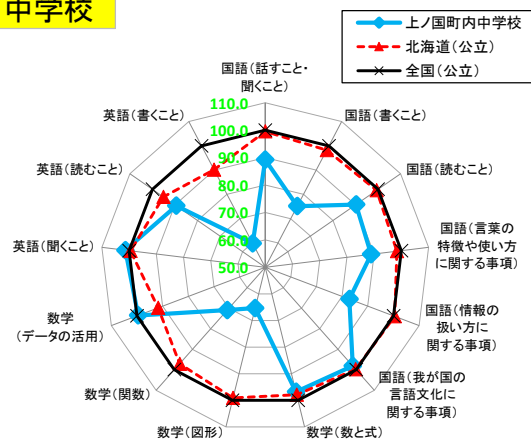
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

小学校

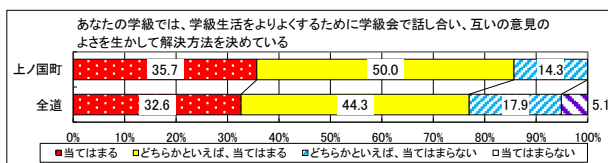
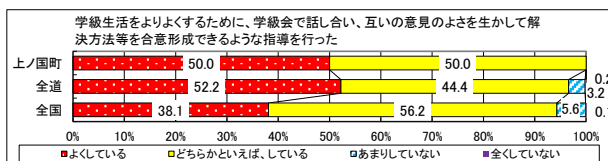
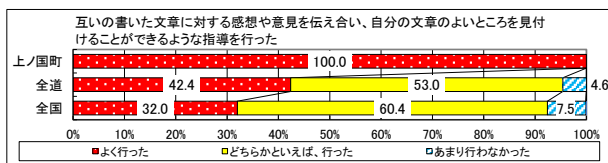


中学校

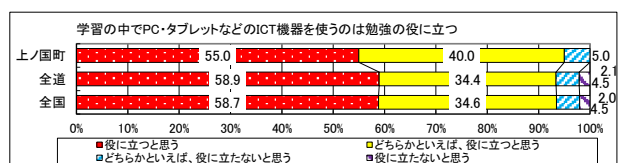
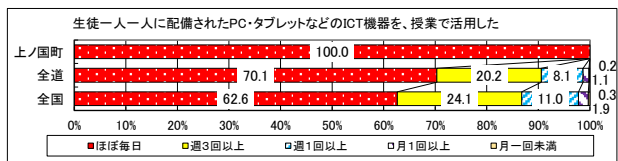
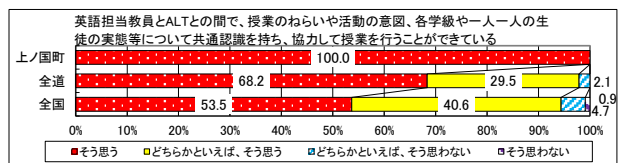


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての小学校において、国語の授業で、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導をよく行うなど、「書くこと」の指導の充実を図ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を大きく上回ったと考えられる。

全ての小学校において、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を合意形成できるような指導を行ったことなどにより、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

中学校において、英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行い、英語の発話を多くした授業づくりに努めたことなどにより、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、前年度までに生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日、効果的に活用したことなどにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上ノ国町の学力向上策】

- ◎ ICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 保育所・小学校・中学校・高等学校が連携した幼児児童生徒の実態把握・交流と授業交流の実施

【Webページ】



(R5.11掲載予定)

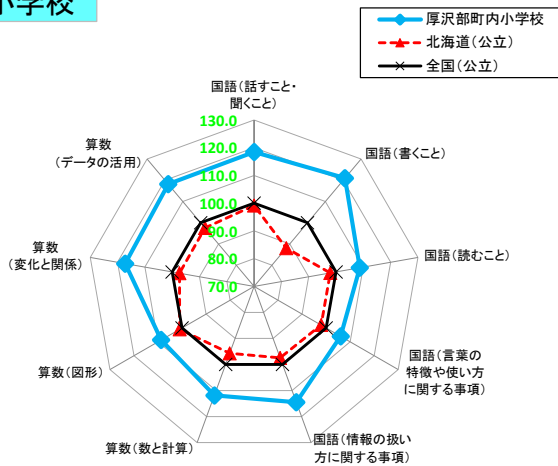
■厚沢部町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:31人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

【教科全体の状況】

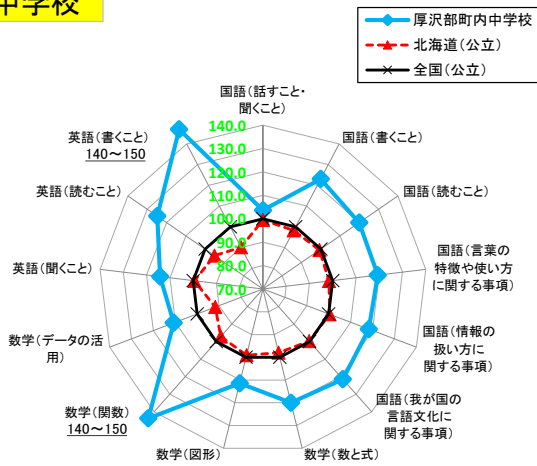
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	75	81
算数・数学	71	63
英語		56

小学校

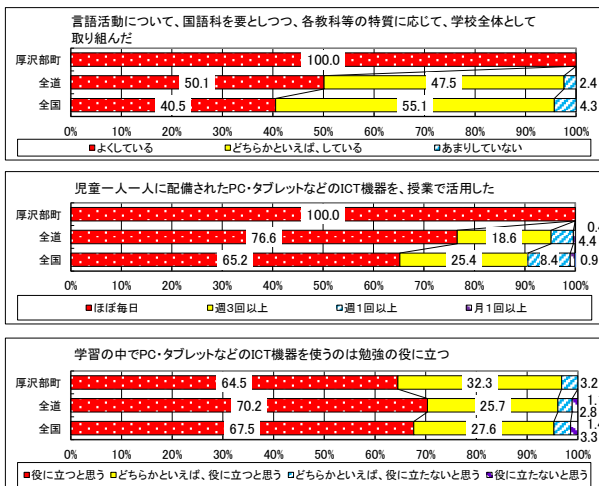


中学校

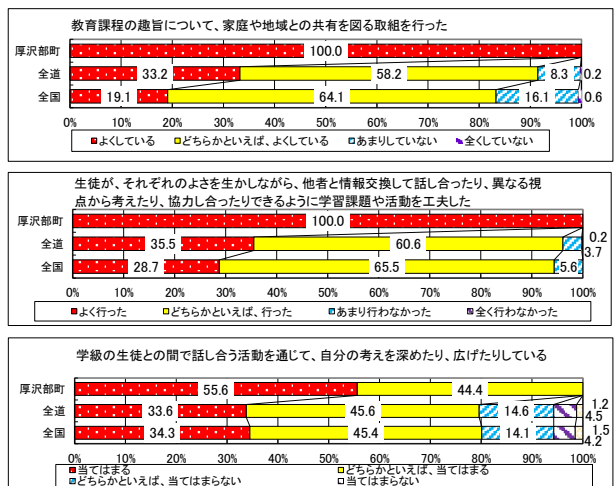


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**  
 全ての小学校において、言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことなどにより、論理的思考力が育成され、国語、算数の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。  
 全ての小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で、ほぼ毎日効果的に活用したことなどにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**  
 中学校において、教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行い、学校・家庭・地域が連携して、全ての生徒たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する質の高い教育活動を行ったことなどにより、国語、数学の全ての領域及び事項で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。  
 中学校において、生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動の工夫をよく行ったことなどにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【厚沢部町の学力向上策】

- ◎ 町教委とプロジェクトチームが連携した、小中一貫教育の推進
- ◎ 1人1台端末やデジタル教材を活用した「わかる・できる・おもしろい」授業の実践
- ◎ 習熟度別少人数指導や協働学習等の充実による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進

【Webページ】



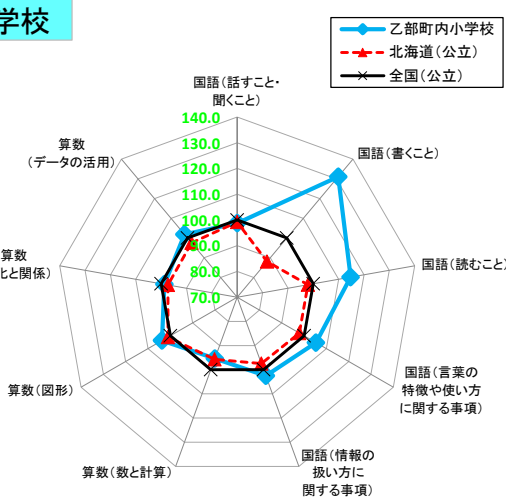
(R5.11掲載予定)

■乙部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

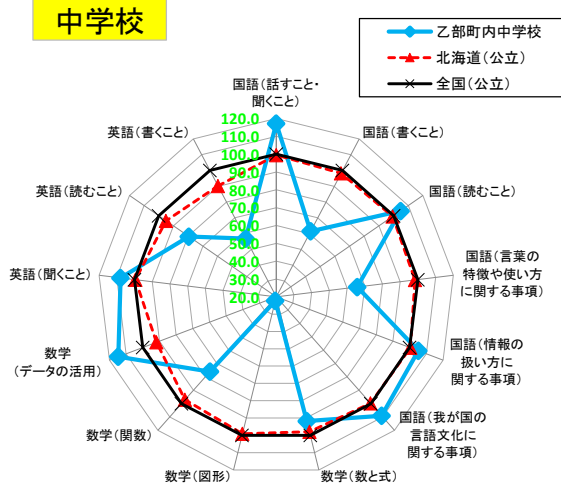
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

小学校

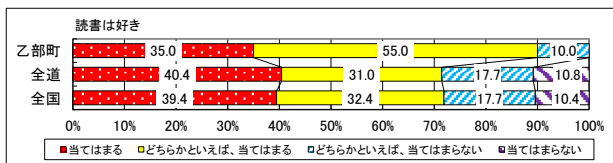
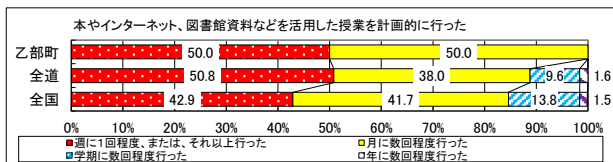
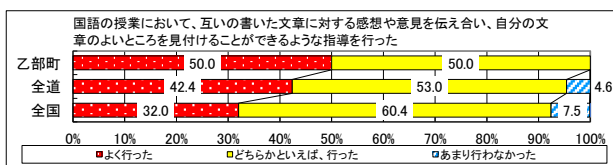


中学校

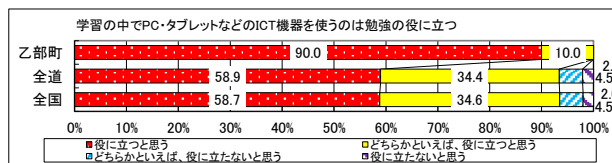
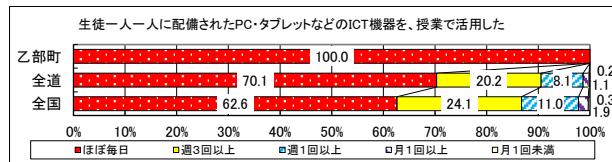
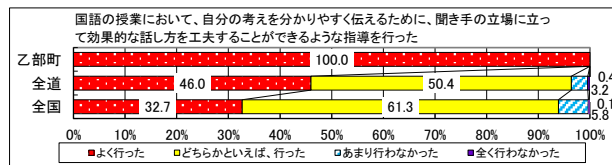


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての小学校において、国語の授業で、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことなどにより、児童の書くことへの意欲が高まり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を大きく上回ったと考えられる。

全ての小学校において、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を月に数回以上計画的に行ったことなどにより、本に慣れ親しむ児童が増加し、読書は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

中学校において、国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立つて効果的な話し方を工夫することができるような指導をよく行ったことなどにより、聞き手を意識した話す力が高まり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を大きく上回ったと考えられる。

中学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を様々な場面で効果的に毎日活用し、ICT機器の学習への効果を実感できる授業づくりを進めたことなどにより、学校の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【乙部町の学力向上策】

- ◎ GIGAスクールサポーターと連携した学校及び家庭での1人1台端末を活用した学習の充実
- ◎ 望ましい学習・生活習慣の確立に向けた意識の啓発

【Webページ】



(R5.11掲載予定)



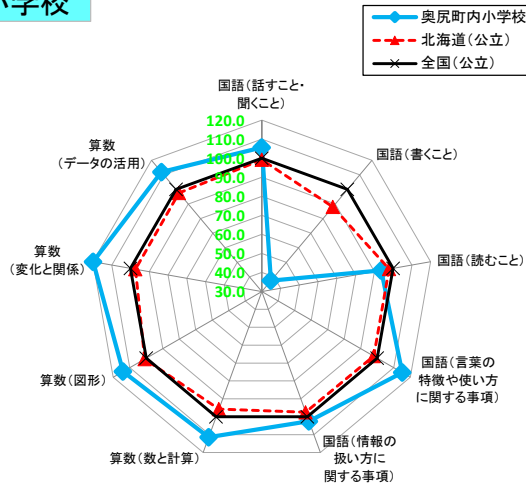
■奥尻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

【教科全体の状況】

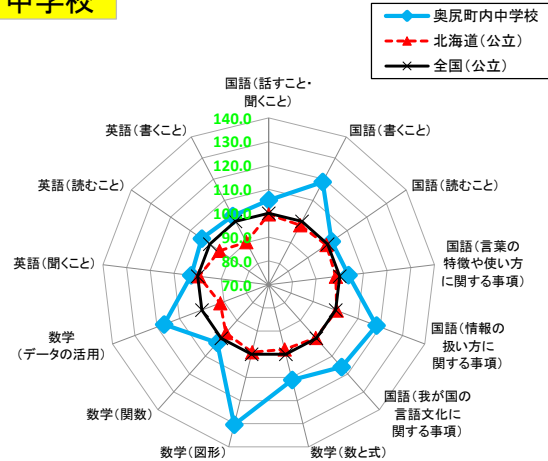
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	77
算数・数学	72	57
英語	-	47

小学校

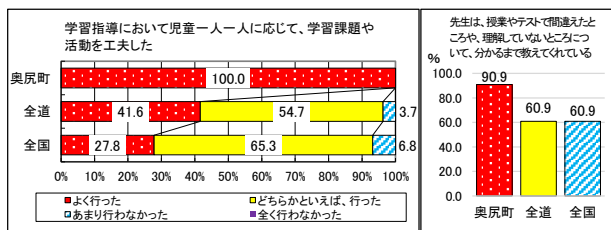


中学校

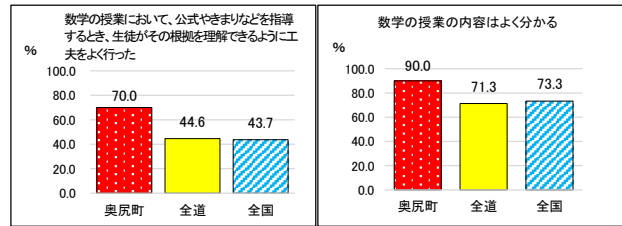
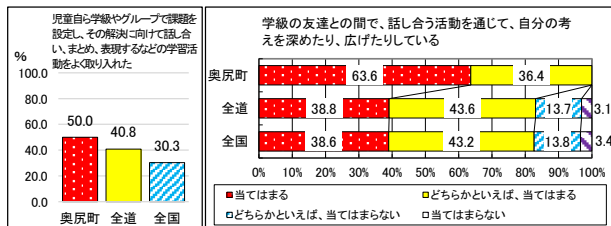
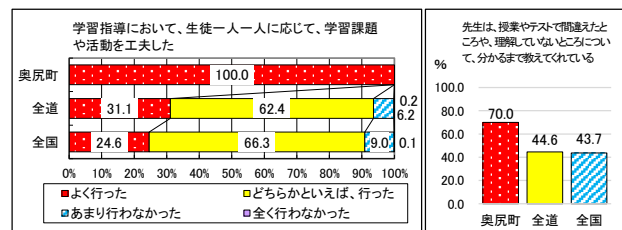


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

全ての小学校において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したり、児童が間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教師が教えたりしたことなどにより、国語の1領域2事項、算数の4領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を充実させたことなどにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

中学校において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したり、生徒が間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教師が教えたりしたことなどにより、全ての教科の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫をよく行い、生徒の基礎・基本の確実な定着を図ったことなどにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【奥尻町の学力向上策】

- ◎ 家庭と連携した望ましい学習・生活習慣の一層の確立と主体的な学習態度の育成
- ◎ ICT機器の効果的な活用に向けた小・中学校が連携した取組の推進
- ◎ 9年間で育てる児童生徒の姿を共有し、地域全体で学びを支援する取組の推進

【Webページ】



(R5.12掲載予定)

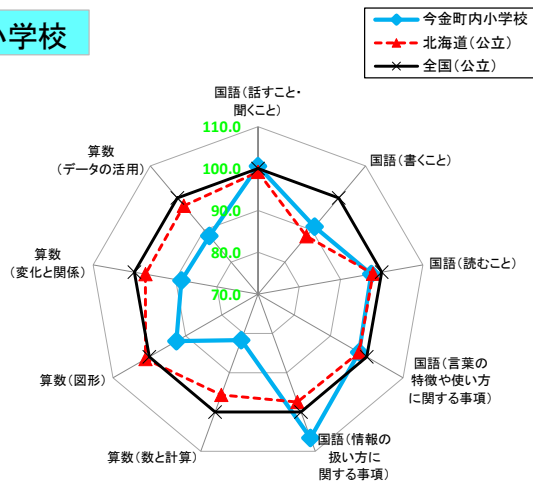
■今金町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:37人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

【教科全体の状況】

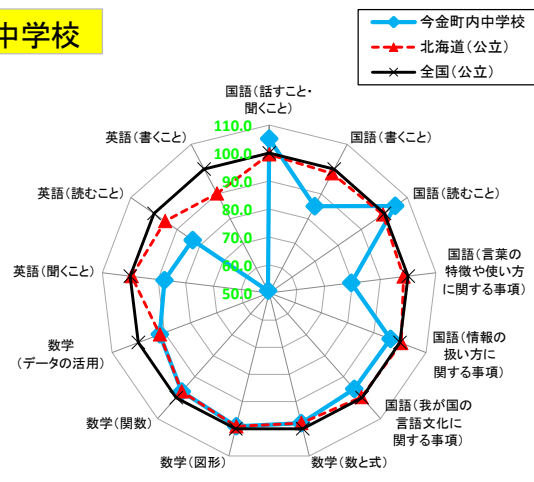
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	68
算数・数学	54	41
英語	—	37

小学校

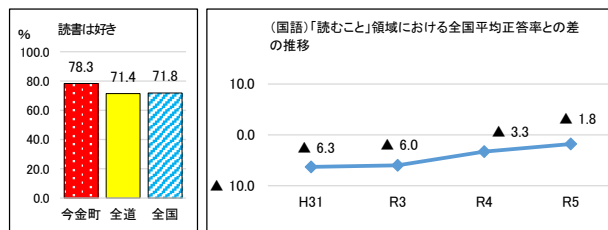


中学校

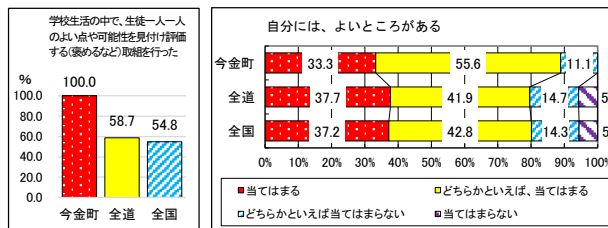
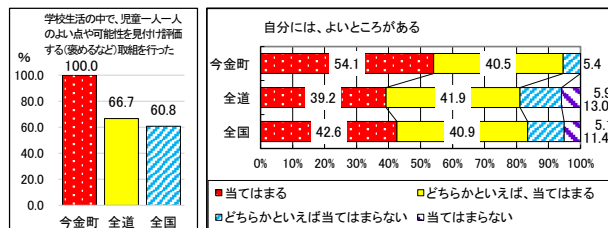
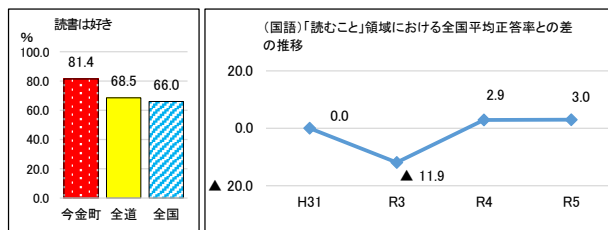


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

全ての小学校において、町の重点目標の達成に向けた、読書に親しむことのできる環境設定などを行ったことなどにより、読書が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「読むこと」領域で全国の平均正答率との差が縮小したと考えられる。

全ての小学校において、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことなどにより、自分には、よいところがあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

中学校において、町の重点目標の達成に向けた、読書に親しむことのできる環境設定などを行ったことなどにより、読書が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことなどにより、自分には、よいところがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【今金町の学力向上策】

- ◎ 「読書と作文のまち」を柱とした、学校・家庭・地域(団体)・行政が一体となった教育政策の推進
- ◎ 学校や家庭での積極的な端末活用によるICT教育の推進
- ◎ 習熟度別指導等の指導形態の工夫による主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりの推進

【Webページ】



(R5.11掲載予定)

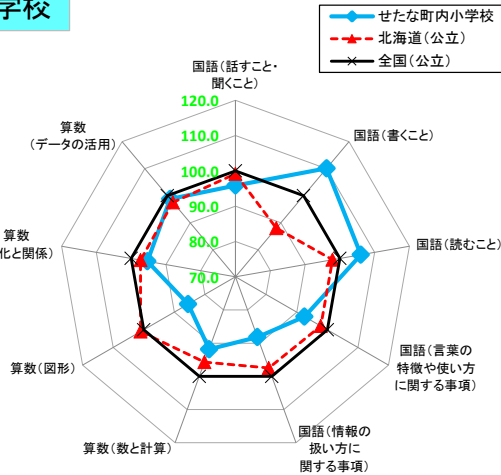
■せたな町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:34人）（中学校数:3校、生徒数:45人）

【教科全体の状況】

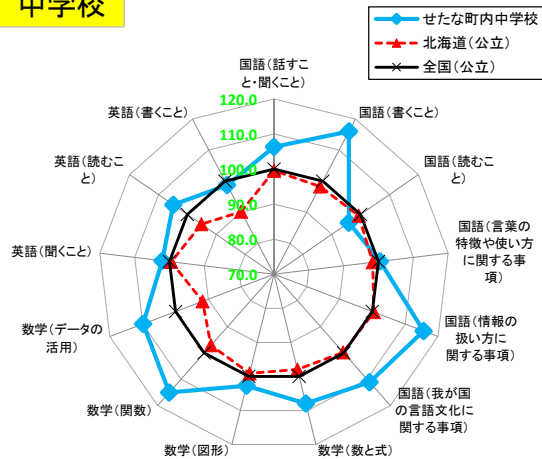
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	75
算数・数学	58	56
英語	—	47

小学校

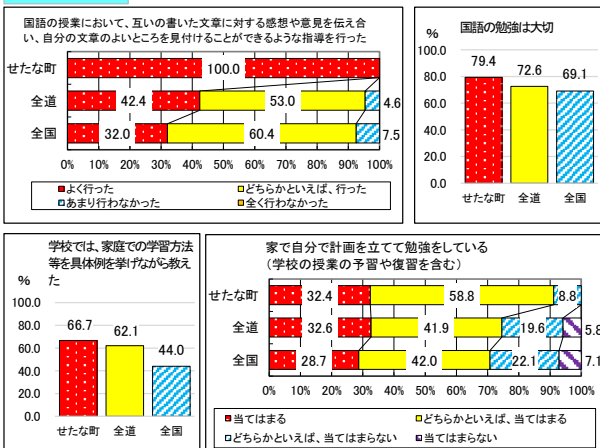


中学校

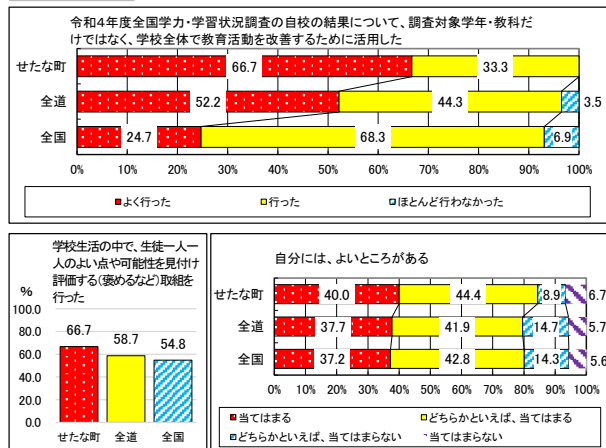


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

全ての小学校において、国語の授業で、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導の充実を図ったことなどにより、国語の勉強は大切だと思つて回答する児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、家庭学習との関連を図った指導の充実を図るとともに、生活リズムチェックシートなどを活用して家庭との連携を図ったことなどにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

多くの中学校において、令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用し、授業改善が図られたことなどにより、国語の2領域2事項、数学の全領域、英語の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの中学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をよく行ったことなどにより、自分には、よいところがあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【せたな町の学力向上策】

- ◎ 「生活リズムチェックシート」等を活用した望ましい学習習慣・生活習慣の確立
- ◎ 1人1台端末等のICT機器の活用による学習環境の充実とプログラミング教育の推進
- ◎ 地域産業と連携した教育活動(地域に根ざした教育)の推進
- ◎ 外国語指導助手、特別支援教育支援員等の配置による教育環境の整備
- ◎ 各中学校区ごとの学校運営協議会における目指す子ども像の共有と地域と一体となった教育活動の推進

【Webページ】



(R5.11掲載予定)